

第22回日本水大賞 応募用紙

様式-1

(整理番号: )

活動の名称	マレーシアデサカナツリヲタノシムーミズシゲンホゴカンキョウカイゼンノトリクミー マレーシアで魚釣りを楽しむー水資源保護・環境改善の取り組みー		
記入年月日	活動主体 (下記より1つ選択)		分野 (複数選択可)
	学校 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 個人 行政		水防災・ <input checked="" type="checkbox"/> 水資源・ <input checked="" type="checkbox"/> 水環境・水文化・復興
活動主体の概要			
活動主体の名称 (個人応募の場合は個人名)	トクテイヒエイリカツドウハウジン ムラサキカワヲマモルカイ 特定非営利活動法人 紫川を守る会		
代表者名 (団体の場合)	ヨシムラ トモミ 吉村 朋美	設立年月日	2006年12月21日設立認証
住所	フクオカケンキタキュウシュウシヨクラミナミクジョウノ 〒802-0802 福岡県北九州市小倉南区		
電話		FAX	
E-mail			
主な活動地	福岡県北九州市及びマレーシア等開発途上国		
組織の概要 (個人の場合は履歴を記入)	設立以来、地域のまちづくり、自然環境保全、及び国内外の環境保護団体との協力活動を実施してきましたが、近年は、開発途上国の中で、特にマレーシア国の環境保護組織と協働してサラワク州の自然保護や環境改善活動を行なっています。 会員数：45名		
応募担当者 (代表者と違う場合記入して下さい)			
氏名	モリシタ マサト 森下 正人	所属:	役職:
		紫川を守る会	
住所	フリガナ 〒		
電話		FAX	
E-mail		URL	
応募活動の概要：(300文字以内で記入して下さい)	<p>当会は、マレーシア国サラワク州クチン市にあるサラワク州資源環境審議会 (Natural Resources and Environmental Board, Sarawak: 以下NREBと略) と協働して、以下のとおり、クチン市内における自然保護や環境改善活動を実施しました。</p> <p>1. 北九州市の紫川の環境改善の経験紹介 2. クチン市内の河川清掃活動の実施 3. クチン市住民に対する廃油や生ごみの再利用活動の実施 4. クチン市を流れるサラワク川での魚釣り大会の実施</p>		
応募活動のアピールポイント：(箇条書き100文字以内で記入して下さい)	<p>1. 水資源及び水質保全に関する技術やシステムをNREBに移転することができた。2. 当会がNREBと環境友好協定を結び、それに基づいた活動を実施した。3. 地域住民の環境意識の向上を図ることができた。</p>		
これまでの受賞歴：	<p>※日本水大賞への既往応募歴 (第19回 ) 受賞がある場合は 第 ( ) 回 ( ) 賞</p>		
「日本水大賞」をどこで知りましたか？(数字に○印を付けて下さい)	<p>1. 新聞広告      2. 官庁内ポスター      <input checked="" type="checkbox"/> 3. 河川協会ホームページ      4. 河川協会からの誘い</p> <p>5. 国の機関からの誘い      6. 県・市町村からの誘い      7. 教育関係機関</p> <p>8. 河川協会ホームページ以外のインターネットの情報      9. その他 ( )</p>		

## 活動の概要

## 目的：

特定非営利活動法人が国際協力活動の一環として、開発途上国の自然環境の改善及び保護のため、現地の環境保全組織と協働し、地域住民の環境意識の向上を図り、実りのある成果を生む環境ボランティア活動を行なうとともに、途上国におけるひとつの支援活動モデルを提供することを目的としました。

対象とする途上国については、低開発国のアフリカや地理的に遠い南アメリカ諸国を除いて、東南アジア諸国の中では環境対処能力を有するとされるマレーシア国をターゲットとしました。

マレーシアの中では、ボルネオ島は半島部に比較して、天然資源に恵まれており、それらの保護や環境改善が急務であることから、2016年6月、当会はサラワク州で活動するNREBと「環境友好協定」を締結し、サラワク州の自然保護及び環境改善活動を支援し、目に見える成果を得ることを目標にしました。

## 内容：

## 1. 北九州市を流れる紫川の環境改善の経験の紹介

サラワク州のNREB、クチン市役所、小中学校等を対象として、2012年から環境セミナー「紫川の環境改善の経験」等を開催して自然保護・環境保全意識の向上に努めてきました。この中では特に、河川等の水質汚濁の改善には、行政、企業等の他に、地域住民の協力が必要であることを力説しました。

そして、具体的な活動のひとつの場所として、クチン市バコ村をモデル地区に指定して、廃油や生ごみの再利用、プラスチックゴミ等のポイ捨て禁止やバコ川の清掃活動等を計画しました。

## 2. クチン市内を流れる河川清掃活動の実施

2013年からNREB、クチン市役所等と協働して地域住民の参加のもとで、市内を流れるバコ川、サラワク川等の主要河川の清掃活動等を実施してきました。

クチン市内の北部に位置するバコ地区には、そこを流れるバコ川の下流に、バコ国立公園とバコ村があります。国立公園では一部の旅行者による自然環境の汚染、破壊等の対策に苦慮しており、一方でバコ村は人口3,000人余りの半農半漁の村ですが、ゴミ収集サービスが十分でなく、不法投棄されたゴミや未処理の生活排水の流入等によりバコ川の水質汚濁が進行し、魚介類の収穫量も減少しており、早急な環境改善が必要とされています。

## 3. クチン市内における3R活動の実施

クチン市内の地域住民を対象にして、地域コミュニティセンター、小中学校等において、廃棄物の3R (Reduce, Reuse and Recycle) 実践活動を推進することを目的として、「廃油からロウソク作り」、「家でできるコンポスト(堆肥)作成」活動等を実施してきました。

その結果、モデル地区のバコ村においては、地域ぐるみの活動成果が実り、2016年には当会の支援により「廃棄物リサイクルセンター」を建設することができました。現在では、彼らの手でセンターの適切な運営・管理を行い、高品質の生産物(ロウソク、堆肥等)を販売できるまでになりました。

## 4. クチン市を流れるサラワク川での市民魚釣り大会の実施

クチン市の一般市民や旅行者等を対象に、2019年8月、河川の資源保護・環境保全意識の向上を目的にして、サラワク川流域において市民魚釣り大会を実施しました。

当会が魚釣り大会の実施要領についてノウハウを教授し、財政支援を行うとともに、NREB、クチン市役所等の運営努力により、多くの市民(約200名)が参加して、魚釣りを楽しみながら自然の恩恵や環境保全の大切さを実感する有意義な市民啓発活動になりました。

## 5. 第4回国際河川サミットでの活動成果の発表

上記の活動成果を広く世界に発信するために、2018年11月、フィリピン国マ نداウエ市で開催された第4回国際河川サミット(4<sup>th</sup> International River Summit)に参加しました。

そこで、「紫川の水質改善の歴史」やマレーシア国クチン市における当会の活動成果などについて報告し、参加者と水環境改善等に関する有意義な意見交換をすることができました。

活動期間 自 2012年 10月～ 至 2019年 10月(通算 7年 月)

上記の期間以前から一部の活動を実施していた場合はその期間と内容を下に記入してください。

**活動の必要性・緊急性 :**

開発途上国では、河川等の公共水域に、未処理の生活排水が排出され、廃棄物等が不法に投棄されることによって深刻な水質汚濁が引き起こされており、それらを防止することが緊急の課題となっています。

マレーシア国サラワク州においては、半島部に比較して排水処理や廃棄物管理対策が遅れており、州都であるクチン市においては進行する産業開発や人口増加により、未処理の家庭雑排水等が市内の河川等に流入して水質汚濁を引き起こしています。

水資源や環境を保全する活動においては、企業、行政機関だけでなく市民による積極的な参加が求められています。例えば、使用済みの食用油等をそのまま側溝や近くの河川に投棄することやゴミのポイ捨てを徹底してやめる等、地域住民の環境意識を変革・向上させ、生活環境を改善する必要に迫られています。

**活動の効果・社会への波及効果 :**

国際的な環境ボランティア活動を開始して、特に、新聞紙上でマレーシア国における当会の活動が掲載されてからは、この活動に共感して、当会の活動に共同参画する企業などが出てきました。

一方では、当会の会員数も増加し、また関連団体等からの寄付も調達できるようになりました。

地方の小規模なNPO組織が、外国の政府機関と「環境友好協定」を締結し、協働活動を実施してきた事例は少ないと思っておりますが、この成功事例が、全国で活動するボランティア団体にとって、ひとつのロール・モデルになれば幸甚です。

現在は、インターネットの普及により、海外における活動は依然と比べてかなり容易になっており、当会を含めて国内のNPO組織などが国内だけでなく海外にも手を広げて、日本の優れた技術やシステムを世界にアピールできればと考えています。

**活動を実施する上での留意点、工夫された点、苦労された点 :**

2016年に、当会はNREBと「環境友好協定」を締結し、バコ村を「資源循環型社会形成のモデル」として地域の自然保護・環境改善活動について技術及び財政支援を遂行しているところです。

地域住民の環境意識の変革に関しては「言うは易し、行うは難し」です。「生ごみを分別し、コンポストをつくり、ゴミのポイ捨てを禁止して、地域の環境美化に貢献しましょう。」と言葉だけで説いても誰もついてきませんでした。しかし、繰り返し根気強くこれらの活動の実践・指導を繰り返すことによって、時間はかかりましたが、活動を理解して協力する住民が増えてきました。

コンポスト作成活動においては、適切な指導及びモニタリングにより品質の良い堆肥を作ることができ、それを販売することが出来るまでに至りました。そして、活動を開始して4年後には、中規模の「廃棄物リサイクルセンター」を建設し、住民自らの手で維持管理できるようになりました。

**活動の今後の計画 :**

2019年8月、当会はNREBと「環境友好協定」を更新して、これから3年間、引き続き協働活動を実施することを決定しました。この中では、人材育成が大きな課題であり、NREBのスタッフを北九州市に招待して自然保護・環境保全のノウハウ等を体験させることを計画しています。この活動についてはかなりの資金が必要であり、そのために、当会が発行しているニュースレター（年2～3回）を機会がある毎に広く配布して会員数の増加を図るとともに、他の環境関連組織等からの寄付をお願いしているところです。

開発途上国への支援活動は一筋縄ではいきませんが、“Think Globally, Act Locally”（地球規模で考え、地域規模で活動する）精神をもって、クリーンで美しい自然環境を守る目的で、マレーシアに対する技術及び財政支援を継続して行きたいと考えています。

**応募推薦者（必要な場合にご記入ください）**

氏名	森下 正人	推薦の言葉 : 自薦になりますが、私は2011年10月から2年間、JICAシニアボランティアとして、NREBで排水処理管理の職務に就き、これがきっかけとなり、当会とNREBの協働活動が始まりました。当会理事長の「紫川のハゼ釣り大会を開発途上国で」の思いがマレーシアで実現しました。それまでに到る長い地道な努力に敬意を表し、環境改善活動において実質的な成果を得ることが出来たことは賞賛に値すること考え、水大賞に推薦する次第です。
所属	紫川を守る会	
電話		